事故ゼロを目ざして
交通安全研修会開催さる

去る十四日村交通安全対策協議会主催による研修会を公民館で開催、犠牲者に黙禱を捧げたあと、小、中学校の児童生徒による作文コンクール入賞者の表彰と入選作の発表がおこなわれた。続いて優良運転者に県及び地区協会長からの表彰状が伝達された。

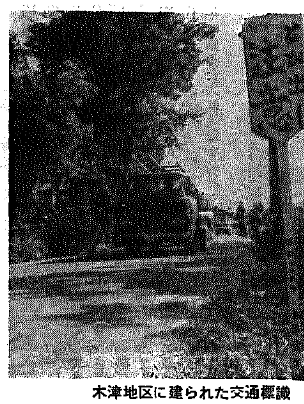
最後に亀田警察署交通課長から、最近の交通事故の実態と事故の大部分は人為的なものであり、絶対に避けられるという講演の後、おたがいに事故防止に万全を期すよう誓い合い散会した。

作文コンクール入選者

☆小学校低学年の部
一位　横越小一年　佐久間律子
二位　〃　二年　斎藤やすひろ
三位　小杉小三年　中村　仁

☆小学校高学年の部
一位　横越小五年　神田　浩美
二位　木津小六年　遠藤　裕彦
三位　沢海小六年　田中裕美子

☆中学校の部
一位　佐藤真佐人
二位　石倉　明美
三位　小林　聡子



木津地区に建られた交通標識

木津青年団では交通標識を建てる

木津青年団は地域内の交通事故をなくそうと、地域内の交通危険箇所に立札を立て、運転者、歩行者の注意を促した。

特に子どもたちやおとしよりの事故防止を期して奉仕活動を行ったもので、地区住民からも喜ばれていると同時に地域青年団の活動についても大きな期待を持たれている。

存のうた

新潟市郷土資料館長　池　正　栄

（ありし日の存先生）

存翁よ、あなたは昭和三十六年、八十四才でこの世を去られたが、聞けば七十才から歌を始められたのだそうですね。それにしては、なんというみずみずしい感覚を生涯持ちつづけられたことか。

おどろくべきことです。すばらしいことです。

「宿命の泣く道を来て七十七年なほ泣き足らず桜に対す」「松蔭のゐのころ草の穂を抜きてしばしの生きを楽しみにけり」それから「夢ならで楽なくらしはなきものと啄木歌集なげうち眠る」などを写しながら、くちずさむとき、わたしは涙さえするのです。

鮮烈な印象をうけて立往生するのです。

現実的な生活感情をこれでもかこれでもかと流露させながら、一抹のロマンチックの底流するあなたの歌、横雲橋の下を流れる阿賀野川の水のように清冽です。

あなたは腰に手拭をブラさげ、チビた下駄をひきずりながら、新潟の街をフラフラ歩いておられました。その風貌は全く茫洋の一語に尽きました。でも、どっこい、こと芸術となると、あなたの鋭い観察眼は、事象を見のがすことがなかったのです。「朝火事の過ぎて街路に残りある鏡台一つ瞼に痛し」とか、「朝の日にくちなしの花はいさぎよし真白く咲きし白さ紛れず」など、こともなげに歌いあげながら、ピカリと観察眼を光らせておられるのです。そのうえ、日本語のもつ音韻の美しさも、じゅうぶん駆使されております。恐れ入りました。

このたび、横越村役場や村民の努力で、あなたの初期の作「われこそは街の酒場のソクラテス君与えんか毒杯も亦」の歌碑が、あなたの卒業した横越小学校の校庭に建てられるという。ありがたいことと思っています。

私ども資料館でもあなたの俳句、短歌、校歌、史歴、原稿、印章などを集めてみました。

「ふるさとの大川の洲に竿並めて鮠釣る子等は顔知れるなし」で世代は変りました。

横越村も新潟市民も、生前のあなたを知る人はそう多くありません。こういう際に歌碑を建てたり、資料展示会を開いたりするのは、文化的意義大いにありと思うのですがあなたご自身は、「飲み残したる酒をいかにせん」の方が重要なんだよ、とニャニャしておられるかも知れませんなあ。

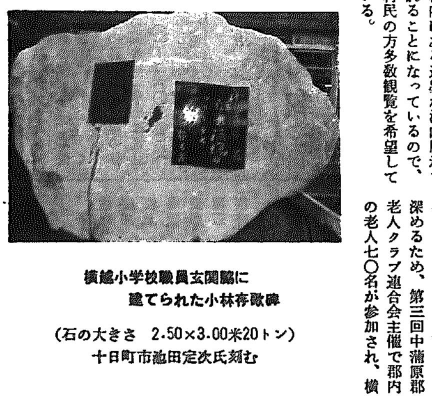
※　※　※

小林存先生記念碑
除幕式、遺墨展

小林存先生歌碑建立発起人会（田村忠雄会長）では数年来、小林先生の郷土の地に歌碑の建立を村内外有志、村当局の賛同を得て計画その事業を進めていたが、この程その歌碑が完成したので来る十一月三日文化の日を期して、除幕式を行うことになった。

碑石は先生がかって「中魚沼の物語」を著述する為曾遊された十日町市内の中津川から選ばれ、表に「われこそは街の酒場のソクラテス君与えんか毒杯も亦」の歌、並んでかって親友であられた羽下大化先生による存先生のレリーフが彫られている。

かって先生が学ばれた横越小学校職員玄関脇に建立さるる予定になっている。更にこの機会を記念して存先生遺墨展が横越小学校脇の武道館で実施されることになっており、村内にある遺墨が沢山展示されることになっているので、村民の方多数観覧を希望している。



横越小学校職員玄関脇に建てられた小林存歌碑

（石の大きさ　2.50×3.00米20トン）
十日町市池田定次氏刻む

「住民の要望にこたえる公民館事業のあり方をもとめて」
…三市中蒲公民館役職員研修会…

社会教育も社会の流れとともに常に開発されていかなければならないと同時に多様化してきている住民の要望にどうこたえていけばよいか、子どもたちから高令者の方までを対象にする公民館活動のあり方を求めて、去る十月二日横越村公民館で三市中蒲公民館役職員の研修会が開かれた。

各公民館の館長、副館長、分館長、運営審議委員、職員約八十名がそれぞれ分科会にわかれて熱心な討議が行われた。

第一分科会（館長、副館長、分館長部会）
司会　熊木亀田町館長
○住民の要望を受入れるための方法、処理の仕方。
○分館活動を充実するための方策はどうすればよいか。
○館長の勤務体制の確立。
○予算の不足に対処のしかた
○館長自身の自覚と認識。

第二分科会（運審部会）
司会　吉井新津市委員
○参加者の不足に対処するにはどうすればよいか。
○小グループ活動を育てよう
○公民館活動にはアイデアマンが必要、若い委員を参加さすべきだ。
○青年団活動を育てよう。
○審議委員の部制の功罪。

第三分科会　職員部会）
司会　白井小須戸町主事
○職員の待遇改善。専門職的な配慮。
○資質の向上のために。
○分館活動の充実の方法。
○住民要求の把握と住民の自主的活動を育てるために。
○広報活動の活用。

など各分科会ともに熱心な話し合いがおこなわれ、時間を忘れて討議された。

横越神田委員の司会で全体会議が行われた後、県下越教育事務所大平社会教育課長から、社会教育は自発的学習意欲がなければ成立しない。自主的活動を促進するためには学習対象者の意見を聞くと共に計画にも参加させていかなければならないなど講評が行われた。終って一同北方博物館を見学し解散した。

老人の「座」をテーマに
各世代との対話集会開催

老人のしあせを高めるためには老人福祉施設も必要であるが、なんといっても家庭環境が最も大切である。そこで家族の中の老人の「座」はどうあるべきかをテーマとして各世代と話し合い相互理解を深めるため、第三回中蒲原郡老人クラブ連合会主催で郡内の老人七〇名が参加され、横越村公民館で去る十月六日対話集会が開催された。

当村役場渡辺住民課長の司会で、老人、婦人、青年男女高校生、中学生各世代代表一名が出てパネルデスカッションを行った。中、高校生は、自分の家の祖父母の例を発表わが家のおじいちゃん、おばあちゃんの紹介、女子青年代表からは、嫁の立場から自分本位でなく家族本位に考えてほしい。「嫁は女中でない。」嫁の立場を尊重してほしいなどの要望があり、一方老人代表からは、老人福祉対策は前進し年金も増額、老人医療も無料化しているが、老人たちのほんとうに欲しいのは明かるい家庭環境であり、子供の扶養義務は知っているが、老人の扶養義務を知らないのではないかと訴えていた。

また、会場から活溌な発言があり、孫のしつけや、教育に老人は口出しするななどという有識者がいる。家族の断絶をなくするには嫁の「お早よう」が大切であるなど、にぎやかな対話集会は午後四時まで続いた。

第二回村民新年俳句大会

一、日時　一月十九日　午前九時
一、場所　横越村公民館
一、兼題　通じて六句
○初　詣
○福寿草
○事務初
○初　凪
○初　雀
一、兼題〆切　十二月十五日公民館内俳句係まで
一、席題　当日発表　午前十一時〆切
一、選者
あがきよし、丸山東本、鈴木松嶺、桑野松雪、野崎西舟、東城紫秋、今井天花、坪谷十九一、今井夫子、田中郁郎
一、投句料　無料
なお、大会当日懇親会があり参加希望者は五〇〇円を受付で納入のこと。
一、賞　三位まで賞状と賞品、二十位まで賞品、外参加賞有り
高点句賞三位まで。

第三回囲碁将棋大会

日時　十一月二十三日　午前九時から
会場　横越村公民館
参加申込み　十一月十七日まで公民館に
競技種目　囲碁、将棋とも小、中、高、一級、老人（六十才以上）の部有り
ふるって参加をお願いします。